

陸上自衛隊の今後の取組み



令和2年2月4日
陸上幕僚監部



説明項目

I 我が国を取り巻く安全保障環境

II 陸上自衛隊の新たな戦い方

III 「30大綱」等に基づく陸自の取組み

1 情勢の概観

概要

我が国の周辺には、質・量に優れた軍事力を有する国家が集中し、**軍事力の更なる強化**や**軍事活動の活発化**の傾向が顕著



ロシア

極東等における軍事活動の活発化



択捉島、国後島への
SSM配備



電磁波作戦能力の
強化

北方領土



北朝鮮

重大かつ差し迫った脅威



核・ミサイル開発の
推進



大規模な特殊部隊等
の保有



中国

軍事力の質・量の強化



サイバー・電磁波
の能力発展



量産・近代化

小
笠
原
諸
島

南西諸島

沖繩本島

宮古島

石垣島

与那国島

尖閣諸島

日本海

河島

アーク極

2 中国情勢(1/2)

資料源:防衛計画の大綱、防衛白書、防衛省HP、各種公刊報道

国家目標

「中華民族の偉大な復興」

強軍建設を推進し、国家の主権・安全・発展の利益を擁護



区分	2010年	2020年	2035年	2050年頃
三段階 発展戦略	第一段階		第三段階	
	軍の近代化の 基礎確立	機械化の実現 情報化の進展	軍の近代化を 基本的に実現	世界一流の 軍隊を建設

各軍の戦力向上

陸軍部隊等の高機動化



海上・航空戦力の増強



ミサイル能力、MD突破能力の強化



統合運用体制の構築

統合運用体制への移行



新領域における能力強化

宇宙



サイバー



電磁波



軍改革により近代的な軍の建設を推進し、統合作戦能力の向上を図るとともに、**電子戦・サイバー分野における能力強化**

2 中国情勢(2/2)

資料源: 防衛計画の大綱、防衛白書、防衛省HP、各種公刊報道

中国軍の活動

尖閣諸島周辺海域での
艦船の恒常的な活動



日本海・太平洋への
進出が急増



西太平洋における空母の活動



【凡例】	
航空機	→
空母	→

尖閣諸島を含む東シナ海周辺において、力を背景とした一方的な現状変更の試みを
継続し、活動を一方的にエスカレートさせる事案も見られ、引き続き予断を許さない状況

3 北朝鮮情勢

国家目標 社会主義強国を建設、
金正恩体制を維持



軍事戦略

非対称的な軍事能力により米韓に対する劣勢を補完

核・弾道ミサイル能力

同時発射能力や奇襲的攻撃能力を
急速に強化

核の小型化・弾頭化
実現に至っていると
みられる可能性



非核化の現状

計3回米朝首脳会談等を実施するも
能力に本質的な変化はなし



その他の非対称戦力



サイバー部隊



特殊部隊(約10万人)

現在も我が国を射程に収める数百発の弾道ミサイルを実戦配備している等、
その軍事動向は、我が国の安全に対する重大かつ差し迫った脅威

4 ロシア情勢

資料源:防衛白書、ウクライナ保安庁、英IHSジーンズ等公刊報道

国家目標

「強いロシア」の建設

ロシア連邦
国家安全
保障戦略
(2015.12.31)

- MD突破能力を含む核抑止力の維持・強化
- 欧州方面の防衛体制、軍事プレゼンス強化
- 国内外へ速やかに戦力投入可能な態勢の構築
- 情報・通信技術の活用

ハイブリッド戦の展開



極東における軍事活動活発化の傾向



ロシアは、ウクライナにおいていわゆる「ハイブリッド戦」を展開し、力を背景とした現状変更を試みたとみられる他、わが国周辺でも軍事活動活発化の傾向

説明項目

I 我が国を取り巻く安全保障環境

II 陸上自衛隊の新たな戦い方

III 「30大綱」等に基づく陸自の取組み

1 予想される新たな戦いの様相

グレーゾーンの事態

武力攻撃に至らない様々な手段により、自らの主張を受け入れるよう相手に強要

新領域を用いた戦い

宇宙・サイバー・電磁波等の新領域における戦いを駆使し、奇襲攻撃による侵略



2 グレーゾーンの事態における対応

敵企図の解明と対処方針の確立

- 海空自等と連携した情報収集
- 日米・多国間の情報共有



抑止態勢の強化による事態のコントロール

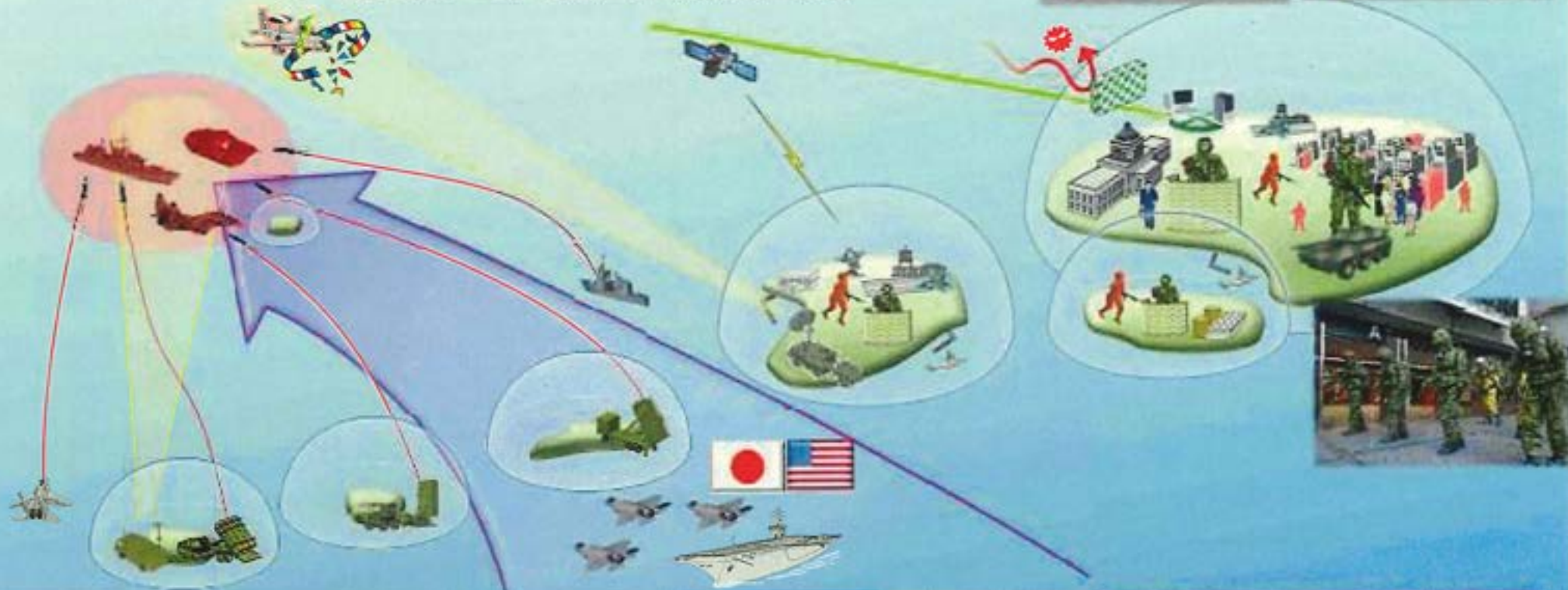
- 平素の部隊配置と連携した迅速な機動展開
- 海空自・米軍との統合・共同によるFDO
- 米軍の受入れ支援
- 警察等の関係機関との連携



3 新領域を用いた戦いにおける対処

基盤の固守

- 港湾・空港等を確実に防護
- 国民の生命・財産の被害を局限



統合・共同による対処

- 電磁波・サイバー領域を活用した敵の阻止・排除
- 長射程火力の発揮



説明項目

I 我が国を取り巻く安全保障環境

II 陸上自衛隊の新たな戦い方

III 「30大綱」等に基づく陸自の取組み

1 「30大綱」等に基づく陸上自衛隊の取組み

防衛の目標

我が国にとって望ましい
安全保障環境の創出



脅威が及ぶことを抑止



確実な脅威への対処、
被害の最小化



防衛目標の達成手段

我が国自身の
防衛体制の強化



日米同盟の強化



安全保障協力の強化



陸上自衛隊の取組

多次元統合防衛力の構築

南西地域の部隊配置の推進

師団・旅団の改編

宇宙・サイバー・電磁波能力
の強化

スタンドオフ火力の獲得・強化

戦略的活動の常続的な実施

日米同盟の更なる強化

安全保障協力の推進

民生の安定に向けた努力

2-1 南西地域への部隊配置の推進

意義

戦力の空白となっていた与那国島、奄美大島、宮古島及び石垣島に部隊を新編し、**南西地域における抑止・対処態勢を確立**

【奄美大島】550名規模

警備隊

中SAM
部隊

SSM
部隊

H31. 3 開設



【与那国島】160名規模

沿岸
監視隊

H28. 3開設



×
第15
旅団

奄美大島

沖縄本島

宮古島

与那国島 石垣島

● : 新編予定駐(分)屯地

【宮古島】700~800名規模

警備隊

中SAM
部隊

SSM
部隊

H31. 3開設

R2. 3 配置予定



【石垣島】500~600名規模

警備隊

中SAM
部隊

SSM
部隊

可能な限り速やかに配置

2-2 師団・旅団の改編

- 意義**
- 事態に即応し、**迅速に展開**して侵攻を阻止するため、**機動師団・旅団へ改編**
 - 機動部隊の展開後、**広域の地域を常続的に防衛**するため、**地域配備師団・旅団へ改編**

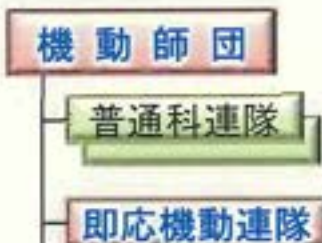
機動師団・旅団への改編



従来の体制



新体制



地域配備師団・旅団への改編

地域配備部隊による防護のイメージ

(東北地域の一例)



地域配備部隊により広域を機動的に対処



従来の体制



新体制



2-3 サイバー作戦能力の強化(新領域)

概要

- サイバー領域における常続的な情報収集・防護態勢を構築
- 事態生起時、相手方によるサイバー空間の利用を妨げる能力等を整備

サイバー防衛隊(統合)と各自衛隊サイバー部隊が連携し、重層的に防護



陸自が主体となり、省のサイバー監視・防護等の態勢を抜本的に強化



陸自サイバー防護隊の新編(2年度末)
基地から野外まで防護し得る体制を整備



陸自が陸・海・空隊員に対し
サイバー共通教育を実施

サイバーセキュリティ・スキルレベル	
Lv7	世界で通用
Lv6	国内トップレベル
Lv5	自衛隊内トップレベル
Lv4	自衛隊内ハイレベル
Lv3	独力で任務遂行可能
Lv2	指導の下、任務遂行可能
Lv1	最低限の基礎知識

2-4 電磁波作戦能力の強化(新領域)

概要

- 電磁波領域における常続的な情報収集・分析態勢を構築
- 事態生起時、敵C4ISRを妨害・無力化させ、陸海空火力を効果的に発揮

電磁波装備品等の取得、研究・開発

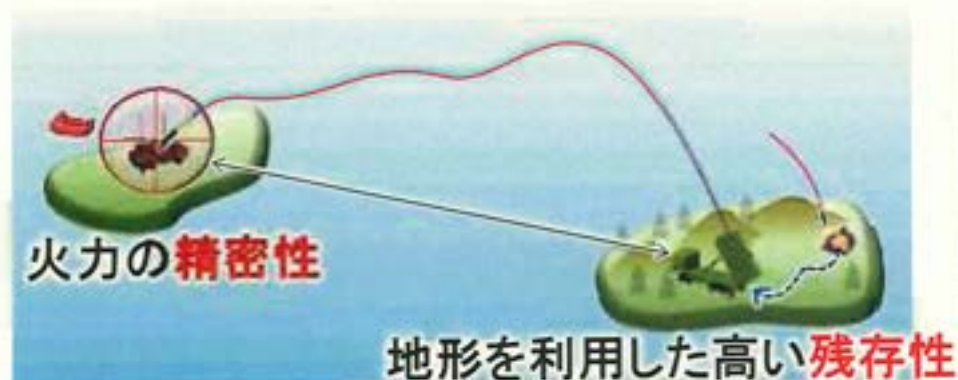


2-5 スタンドオフ地上火力の保持

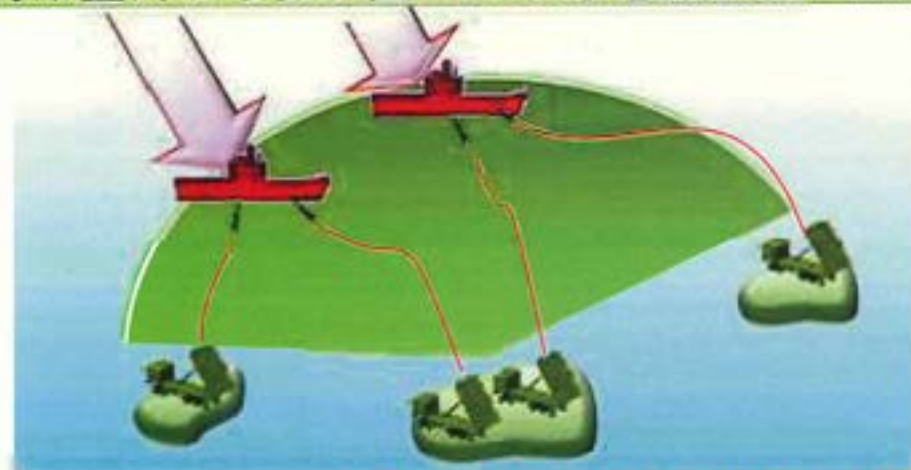
意義

- 侵攻を試みる部隊の**脅威圏の外**から、隊員の安全を確保しつつ、我が国への**攻撃を効果的に阻止**
- 南西地域の島嶼部への攻撃に対する**抑止効果を増大**

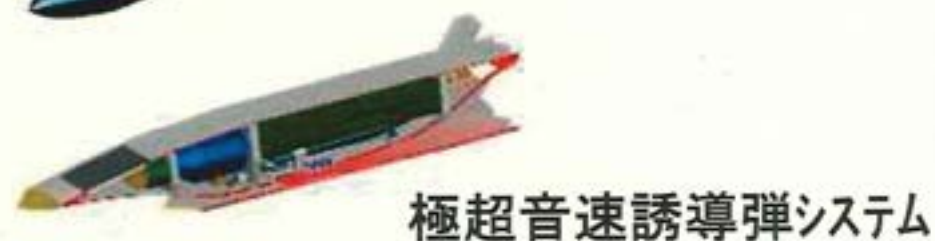
長射程地上火力の特性



脅威圏外から我が国への攻撃を効果的に阻止



更なる長射程火力の保持



より遠方からの**攻撃の阻止**が可能

2-6 戦略的活動の常統的な実施(平素からの抑止)

意義

海空自・米軍・関係機関との連携により、**対処の実効性を向上**させるとともに、**抑止としての戦略的なメッセージ**を発信

海空自との**統合**の充実



空路潜入訓練(空自)



輸送機(C-2)による
弾薬輸送等



水陸機動団演習(海自)



洋上機動訓練(海自)

日米**共同**の強化・拡大



実効性・相互運用性の向上



共同による火力発揮要領
の研究

共同実動訓練(OS、IF、FL、TS等)



共同指揮所演習(YS)

共同による
火力統制



陸自



米陸軍

日米共同対艦戦闘
訓練

3 日米共同の新たな取組み①

意義

- 望ましい安全保障環境創出のため、**インド太平洋地域における日米のプレゼンスを向上**
- 自衛隊の領域横断作戦と米軍のマルチ・ドメイン・オペレーションを融合して、相互運用性を向上
- 米陸軍及び米海兵隊と各種共同訓練を実施し、**抑止・対処の実効性を向上**

日米のカウンターパート



戦略
レベル
(陸幕)



日米シニア・リーダーズ・セミナー



AUSA年次総会

作戦
レベル
(総隊～
方面隊)



指揮所演習 (YS)



実動演習 (OS等)

戦術
レベル
(師団～
連隊)



アイアン・フィスト



ノーザン・ウァイパー



アークティック・オーロラ

3 日米共同の新たな取組み②

- | | |
|-------------|--|
| 米国
(米陸軍) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 平素からの「競争の段階」における抑止 ○ A2/ADを打破するマルチ・ドメイン戦力の充実 |
| 我が国
(陸自) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 領域横断作戦とマルチ・ドメイン・オペレーションの融合 ○ 抑止に直結する訓練・演習の戦略的实施 |



オリエント・シールド19(OS19)

目的: 米陸軍との共同対処能力の向上
 時期: 元年8月～9月 (OSは毎年実施)



長射程火力(HIMARS)の展開



作戦調整要領(計画) 作戦調整要領(現地)

共同指揮所演習(YS)

目的: 方面隊の能力の維持・向上
 時期: 年度を通じて実施 (総合訓練12月)
 場所: 朝霞、健軍等の方面総監部



統合・共同火力調整



指揮官調整 関係機関との調整

日米豪	良好な安全保障環境の創出に資する更なる連携強化
-----	-------------------------

4-1 安全保障協力の推進

意義

○ ハイレベル交流、共同訓練、能力構築支援、RDEC等を**戦略的に推進し、「自由で開かれたインド太平洋」を実現**

○ 普遍的価値、安全保障上の利益を共有する国々との緊密な連携を図り、**グローバルな課題への対応に寄与**

※ RDEC: Rapid Deployment of Enabling Capabilities

陸自のグローバルな取組



【凡 例】

● : ハイレベル交流・幕僚懇談等
● : RDEC実施国

● : 共同訓練(二国間・多国間)
● : 国際平和協力等業務

● : 能力構築支援
● : 海賊対処行動

4-2 安全保障協力の成果

意義

質の高い活動を通じ、高い能力と士気を国際社会に発信し、我が国への信頼の獲得に貢献

国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS)



【イージュンUNMISS副司令官】

日本からの4名は、**勤勉かつ効果的に業務を遂行**し、また語学力も高く**極めて優秀**。時間を厳守する等の基本的事項ができており、**上司や同僚からも信頼を獲得**

国連PKO支援部隊早期展開プロジェクト (RDEC)



【カレ国連活動支援局長】

ケニアでRDECを視察した際、**陸自教官団の能力の高さを実感**。日本の**貢献に感謝**するとともに、**引続きの貢献を期待**

派遣海賊対処行動支援隊 (DGPE)



【米谷駐ジブチ大使】

DGPEの活動のみならず、ジブチ軍に対する**災害対処能力強化支援**も高い評価を獲得。大使館としても**情報発信に関して積極的に連携**を図る所存

シナイ半島多国籍部隊監視団 (MFO)



【ドウシェインMFO司令部幕僚長】

日本の2名は、皆が**優秀と評価**しており、派遣に感謝。MFOとエジプト軍間の調整に関する齟齬が格段に減少し、**MFOの任務遂行に大きく貢献**

国連PKO工兵部隊マニュアル



【ラクロワ平和活動局長】

日本の多様な貢献の中でも**工兵マニュアル改訂の意義は高く**、陸自の貢献に感謝。施設学校を研修した際、**優れた能力を実感し、工兵マニュアルの質の高さに納得**

能力構築支援 (パプアニューギニア軍楽隊)



【トロポPNG軍司令官】

本事業は**歴史的かつ完璧に成功**。日本の献身的な貢献に心から感謝

5-1 民生の安定に向けた努力(全般)

意義

初動対応部隊による情報収集、人命救助、応急復旧支援、生活支援等を実施し、**国民生活の安全・安心に寄与**

災害派遣件数(2. 1. 7現在)



30年7月豪雨(30. 7)



台風19号被害への対応(元. 10)

5-2 緊急患者空輸、不発弾処理

意義

離島間の緊急患者空輸、不発弾処理等、**地域の特性に応じた活動を実施し、地域社会に貢献**

緊急患者空輸

- 奄美大島以南においては、第15旅団が恒常的に緊急患者空輸を実施
- **約200件／年**の空輸を担当
(内、約9割が15旅団、1割が北部方面隊)

不発弾処理

- 自衛隊業務のひとつとして、各都道府県の警察本部長の要請により実施
- 各方面隊(北方・東北方を除く)の不発弾処理隊が担任
- **約1500件／年**の不発弾処理を担当
(その内、約5割が第15旅団管内で実施)



緊急患者空輸(沖縄県)



緊急患者空輸(北海道)



不発弾処理(沖縄県)



不発弾処理(東京都)

5-3 警察等との連携の強化

意義

平素からの共同訓練を通じて連携を強化し、**国内外のあらゆる事態に迅速に対応**

警察等との連携による対処要領の確立



機動展開時の警察による先導



共同による検問



武装作業員への対処

相互運用性の向上



警察との共同訓練



地図・地誌等の共有



教育受託

5-4 即応態勢の維持

意義

要員指定、準備訓練を実施して即応態勢を維持し、**国内外のあらゆる事態に対応**

任務	即応態勢
警戒監視	沿岸監視部隊による 24時間警戒監視
災害派遣等	初動対処部隊「FAST-Force」が 24時間待機
不発弾処理	各方面隊の 不発弾処理部隊 が待機
国際緊急援助活動	医療及び航空 の各部隊（人員、車両及びヘリコプター）が待機
国際平和協力活動	PKO等へ部隊を派遣する方面隊を指定
在外邦人等輸送 在外邦人等保護措置（警護・救出）	ヘリコプター部隊、誘導輸送隊等が待機

FAST-Force
Fast Action Support Force

- 人員：約3,900名
- 車両：約1,100両
- 航空機：約40機




凡例	●	: 駐(分)屯地
	○	: 駐(分)屯地から概ね2時間



「領域横断作戦の要」として、あらゆる事態に対応し、我が国の主権、領土、国民を守り抜く強靱な陸上自衛隊を創造

